

平成29年度 第1回 明和町総合教育会議 議事録

1. 日時 平成29年4月26日(水) 19:40~21:10
2. 場所 明和町役場2F 大会議室
3. 発言者 明和町長 中井幸充
明和町教育委員 竹本留美子、鈴木壮、作野郁子
明和町教育長 下村良次
事務局
総務課：課長 西口和良
教育総務課：課長 西尾仁志、係長 荒木隆伯、係 西井直貴
こども課：課長 世古口哲哉

4. 概要

議題1

委員定数について

【教育長】

教育委員会としては、定例教育委員会で議論した結果、これからさまざまな議論をしていく中で1名増員したい。

【町長】

本当は地区という殻を破っていかなければいけない。どの地区から誰を選ぶかは行政、議会で意見伺いながら進めると思うが、これから議論していくにあたり1名増やすことは良いことである。定数条例を定めることとなるので、6月議会で上程され、議決されれば9月議会にて任命することとなる。

議題2

明和中学校建設について

【町長】

基本設計において、大まかな骨格については8月中にはまとめられたい。その上で9月議会において承認いただき、遅くとも10月初めには実施設計の契約を締結されたい。

そして、平成30年3月末までには実施設計を完了し、平成31年度の内示をいただく段階で、工事業者の入札へと進み、理想としては、平成32年度より新校舎受け入れをスタートさせたい。

交付金や補助金ついて、文科省へ要望し平成30年度の予算に盛り込まれたい。

とにかく、ワークショップ、ワーキング会議等を通じて地域住民や現場の意見を取り入れつつ、基本設計、実施設計をお願いされたい。

【教育委員】

当初の行政側の意見もこれら基本設計案に反映はされているのか？

【事務局】

平成25年に基本構想を出している。それを踏まえ、プロポーザルの募集段階で仕様書等により基本的な情報を提示しているので、ほぼ反映されていると考える。

【町長、教育委員】

いろいろな人の意見を聞き過ぎると工期がずれてしまう恐れがある。工程表はしっかり守った上でワークショップ等意見を取りまとめるように。

【事務局】

今後の工程については5月初めの第一回ワーキング会議においてしっかり検討させていただく。

議題3

校区編成について

【町長】

平成29年度中に検討委員会の立ち上げに向け、町が入る前にまずは骨格の部分で教育委員会の中で意見をまとめられたい。その後、ハード面の整備などが絡んできたときに総合教育会議等で町部局と一緒に検討してく。

【教育委員】

校区編成により通学面の危険性や地域のコミュニティであるとか、新たなリスクが発生する。明和町がこれまでうまくやってきたことを活かしつつ種々のリスクを把握し、最適な手法を行えるような検討委員会の人選をお願いしたい。

【町長】

小学校は100年近い歴史もあり、伝統・文化を考慮しながら考える必要はありますが、とらわれ過ぎても身動きがとれない。防災面を考えると前に進んでいかなくてはならない。

【教育委員】

地域を無くして他へ吸収される、というイメージを与えるのはだめ。町全体を見て、新たな考え方をしていく必要があるのでは。現状の古い施設・遊具の修繕から、安心・安全な学校の建設・管理を考えると、費用の面からあまり多く学校を作ってもいけないのでは。4つでも厳しいと思う。

【町長】

個人的には3校区案にしたい。建設場所についてはこれから検討課題である。津波浸水区域からはもちろん除外していく。

また齋宮小を建て替える場合は、齋宮跡区域外とする。

過去に統廃合の関係で、受け入れ先の学校や保護者に強く反対された経緯がある。しかし、みょうじょうこども園が完成したときは子どもの受け入れや流動はスムーズにいった。校舎の改築や増築といった、再整備するときに統廃合をされたい。

【教育委員】

トップダウン式で押しつけられるイメージを持たれてはいけない。いろんな機会を使って恐れずに意見を出し合い、住民の皆さんが納得していけるよう進めていかれたい。

【教育長】

これらを含め、いろいろな人の意見を聞き、みんなが納得できるような結果になるような検討委員会を立ち上げる必要がある。防災面や教育面、建設面など様々な分野の方を委員会メンバーに組み入れることを含め、教育委員会と事務局で検討していく。

議題 4

認定こども園の整備（社会福祉法人 豊津児童福祉会より）について

【事務局】

期待できる補助金等が少ないことから、なりひら保育所、双葉幼稚園、旭ヶ丘幼稚園に通う児童をある程度受け入れ可能な規模であれば、豊津児童福祉会が希望する2園目の認定こども園の設立を前向きに捉えている。場所としては交通の便や規模を考え、旧菊川鉄工あたりが第一候補か。今年度補助金の申請をしていく。

【町長】

大淀の住民も、ゆたか園などへ預けているので、あまり近くの幼稚園や保育所にこだわっていないように感じる。

待機児童等の問題は付いてくる。町営でやっていくばかりではなく、民間に委ねていかなければいけない部分がある。

新たな土地を買い求めていくのは、なかなか難しい。旧菊川の土地は、一応公社に確保してある。役場の建て替えの関係もあるが、十分な広さがあると考ええる。

みょうじょうこども園のような形で進めていくのが一番理想である。

人数が多くなりすぎてもいけないと感じる。150人位の定員が理想。